

市民と市長の対話集会

第142回

タウンミーティング記録集



令和3年7月18日(日曜日)

形式 オンライン

時間 10:00~正午

東村山市

○開催内容

令和3年7月18日（日）午前10時、オンライン形式で、「タウンミーティング」を開催いたしました。11名の方にご参加いただき、ご意見を伺いました。

○会場アンケート結果（住所地・年齢・性別について）

アンケート用紙は郵送で送付し、9枚を回収しました。

・アンケート回答者の住所地

本町	1人
久米川町	1人
秋津町	0人
青葉町	1人
恩多町	0人
萩山町	1人
栄町	0人
富士見町	3人
美住町	1人
廻田町	0人
多摩湖町	0人
諏訪町	0人
野口町	0人
市外	0人
未回答	1人
合計	9人

・年齢

20代以下	0人
30代	2人
40代	1人
50代	1人
60代	1人
70代	3人
80代以上	1人
未回答	0人
合計	9人

・性別

男性	7人
女性	2人
合計	9人

○次回開催情報

●対象 東部エリア（秋津町・青葉町）

●申込み 申込みが必要です。事前にお申込みください。

（9月13日から9月24日までに申込。先着15名）

連絡先：東村山市 市民部市民協働課 電話/(393)5111 FAX/(393)6846

Eメール：kyodo@m01.city.higashimurayama.tokyo.jp

開催日	会場	時間
令和3年10月2日（土曜日）	秋津公民館	10:00～正午

※：今後の感染状況などによっては変更・中止になる場合があります。

タウンミーティング記録（概要）

会場での発言内容は発言要旨を記録し、個人名は伏せさせていただきました。

【市長あいさつ】

皆さんおはようございます。

本日は緊急事態宣言が発令されている中、また暑い中にも関わらず、このように多くの市民の皆さんにリモートでのタウンミーティングへの参加をいただきまして、厚く御礼を申し上げます。

また常日頃、市民の皆さんには、市政運営にあたり、様々な点でご指導・ご協力をいただいておりますことに、この場をお借りいたしまして厚く御礼を申し上げます。

通常のタウンミーティングは私が東村山市内の 13 町、それぞれにお邪魔をさせていただいて、対面しながら直接市民の皆さんの様々なご意見ご要望等を承るという形で行っているわけですが、昨年のコロナ禍以降、対面でのタウンミーティングの開催ができないことが多く、なかなか市民の皆さんの声を直接聞く機会を持つことができませんでした。今回は緊急事態宣言が仮に発令されたとしても開催できるように、当初よりリモートでの開催を計画してきた次第でございます。

コロナ禍が続き、また感染もかなり拡大をはじめていますが、ワクチン接種につきましては当市でも、今月中で希望される方は終了する予定となっており、65 歳以上の市民の方の約 8 割が接種を完了するところでございます。しかしながら、全国的に報道等でご案内のとおり、ワクチンの供給量がこのところ、かなり滞ってきておりまして、当市でも今月下旬からはこれまでの半分程度の供給量になる見込みであります。そういう中で、20 日からは 64 歳以下の方のワクチン接種の予約を受け付けるということでございますけれども、このままの体制でワクチン接種を続けてしまうと、1 回目は打てたが、2 回目の予約が取れない、あるいは予約を受けても途中で予約を解消せねばならないというような状況に陥りかねないことから、やむを得ず一昨日、8 月の第二週目ぐらいから平日に行っている保健センターでの集団接種と、スポーツセンターで行っている集団接種については、一時的に休止をさせていただくことといたしました。全国的なワクチンの品薄ということではあります、市民の皆様にご迷惑をおかけいたしますことをまず冒頭からお詫び申し上げます。ただ供給がストップしてしまうわけではないので、一定量は確実に供給をすると国のほうもおっしゃっておられるので、なんとか市としては、11 月いっぱいくらいまでには、希望される全ての 12 歳から 64 歳の市民の皆さんに接種を完了できるように、これからも接種体制の整備・再構築を進めていきたいと考えております。それから何よりもワクチンの確保に向けて、最大限努力をしていきたいと考えている次第でございますので、何卒、ご理解・協力のほどよろしくお願い申し上げます。

今日はワクチンの問題や、コロナの問題だけではなくて幅広く市政、あるいは地域の様々な課題について率直に意見交換ができればと思いますのでよろしくお願い申し上げます。私のあいさつを終わらせていただきます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

【会場でのご意見】

～ まちの価値の向上 ～ について

◆道路の冠水対策について

(富士見町 Sさん)

富士見公民館で行われた第140回タウンミーティングで質問した冠水とかL字溝化について、その回答が記録集に載っていますが、回答を市長は読んでいますか。また、陳情も受けていると思いますけれども、その陳情を受けている中で、この回答で満足されますか。

◎ 市長回答 ◎

満足といたしますか、現状ではなかなかすぐに対応ができないということで、できるだけ早期に必要な対応ができるように努力をしてみたい、そのように思っております。

◎ 道路河川課より ◎

強い降雨時に現地にて雨水の流れ、道路の冠水状況をあらためて確認させていただきます。そのうえで道路冠水の抑止のため既存の雨水管が有効活用できるよう、効果的な場所への横断グレーチングや集水柵の新設を検討します。

◆子どもたちが伸び伸びと自然に触れ合えるようにしてほしい

(久米川町 Iさん)

東村山が持つ自然は、ファミリーや若年層にとっては貴重な財産になっています。その自然をもっと活かして、子供たちが伸び伸びと自然に触れあえるようにしてほしいなと思っています。例えば、武蔵村山市にある野山北公園のように、自然を利用したアスレチック、市内の川を利用してホテルの観賞、自然遊びのインストラクターの設置、ツリーハウスなどいろいろできるのではないかなと思っています。

◎ 市長回答 ◎

東村山市の自然を活かして子供たちがのびのび遊べるような環境づくりについて、具体的なご提案をいただきました。

市内にある公園には実は二種類ありまして、一つは東京都が所有・管理している公園や緑地です。例えば東村山中央公園は東京都の都立公園です。それから狭山公園も都立の公園です。それから八国山緑地も東京都が管理をしているところでございます。先ほどの野山北公園も確か都立公園だったと思います。これらの公園は規模が非常に大きいものとなりますので、そういうところについては市としても東京都に対しいろいろと要望、要請させていただきたいなと思っています。

また、市が管理をしている公園が市内には大小約 160 ヶ所ございます。今、市では職員が 5 人でこの 160 ヶ所の公園を管理していて、なかなか管理が行き届かないというような部分もあったことから、今後は指定管理者制度というものを活用して民間事業者に公園の管理をお任せするような仕組みを作りました。これから事業者を募集して、どういう管理運営をしていくかということを実体的に進めていくこととなります。その中ではやはり適切に公園を管理していただくというのはもちろん、今お話がありましたように、公園の持っている様々な機能を活かしながら、特に子供たちが公園で伸び伸びと遊べるような取り組み等について具体的に提案いただければと考えています。できるかどうかはわかりませんが、例えばどこかで一時的にバーベキューができるようにしたり、ドッグランを作ったり、今日いただいたインストラクターの養成やアスレチックの設置、またホタルについて言いますと、過去、市内の多摩湖町で市の保有している緑地の一部で、ホタルの養殖を試行的にやってくさっている市民グループがありました。そういったホタルが見られる東村山をぜひ作っていききたいなと思います。

あと、コロナ禍が始まる前までですけれども、これも市民の方の活動で、秋津の自治会の方では、自治会の行事として「ホタルを見る夕べ」みたいなことをなさってくださっているところもあります。そういうところを含めて、今後、市民の皆さん、それから民間事業者と連携して、ご提案のあったことを少しでも実現できるように努力をしていきたいと考えています。具体的に例えば「この公園でこんなことができないか」というようなことがあれば、またご意見をいただければありがたいなと思っております。

◆私有道路整備費補助金をもっと使いやすくしてほしい (青葉町 O さん)

市の私有道路整備補助という制度がありますけれども、これにつきましては、道路全体に対してしか使えず、部分的なものは使えないとのことでした。また、各自治会からの要望も多いとのこと、10 年以上はお待ちいただきますよという話でした。市内の様々な地域において、住宅地の設備は老朽化してきていると思うので、本制度について、例えば道路の一部にも使えるとか、使い勝手が良くなるよう改善していただきたいと思っております。

◎ 市長回答 ◎

私有道路の整備の補助金のあり方についてご意見・ご要望をいただきました。

おっしゃられるように社会状況等も変わってきておりますので、それに合わせて今後、修正する部分は修正するというのも必要ではないかと思っておりますし、財政的な問題でかなりの年数をお待たせしておりますので、こちらについてもできるだけ早く申請をいただいた私有道路について整備ができるように努力をしていきたいと考えております。

ただ部分的ものに補助を使うことができるというのが、どこまでの部分にするのかというのは課題もありまして、側溝の少しを直すとか、あるいは、マンホールの蓋の問題というようなこともあって伺っていますが、これらの一部を補修したとしても解決にいたらない問題である可能性もあると思っております。その辺のことについてどのように進めていくのか、どういう課題があって前に進んでいってないのかということもこれから事案を集めて課題を整理しながら、できるだけ私有道路の整備のご要望に対しても対応できるように検討してまいりたいと思っております。

◎ 道路河川課より ◎

私有道路整備補助は、無償の砕石支給、舗装工事、路面排水溝設置工事への工事費の70%または80%補助を行うものです。整備の範囲は私道上の一部でもご申請頂くことは可能であり、工事に伴って必要なマンホール蓋の交換も対象となります。

しかし現在、工事については、申請いただいてから施工まで10年ほどお待ちいただく状況になっております。速やかに対応できないことをお詫び申し上げますと共に課題を整理して参りたいと考えております。詳細については道路河川課維持補修係にご相談ください。

◎ 下水道課より ◎

私道に設置されている雨水管及びマンホール蓋については、私道とともに私有財産として、土地所有者の方に維持管理を行っていただいているものです。

これまでご説明させていただいているように、市が私有財産である私道の雨水マンホールの蓋を貸与する対応を行うことはできませんので、大変申し訳ありませんが、ご理解くださいますようお願いいたします。

老朽化している雨水マンホール蓋については、私道整備の補助制度を活用した補修等のご対応をご検討いただきますようお願いいたします。

◆都市計画の今後の展望について

(美住町 S さん)

今後の都市計画、まちおこしについてどのように進めていくか、お聞かせいただきたいです。

◎ 市長回答 ◎

東村山市は新しい都市計画マスタープランというものを昨年度策定して、今年の4月からこれに基づいて、ハードの整備を進めております。

ご案内のとおり東村山市は、昭和40年代から50年代にかけて人口が急増しており、当時は基盤整備よりもまず学校を作ることに注力しなければならない状況がありましたので、残念ながら基盤整備については、多摩26市の中でも極めて遅れている部類の市になっていきます。しかしながら今後の高齢化時代を見据えて市民の皆さんが住みたい・住み続けたいまちにしていくためには、豊かな自然を残しつつ、一方で狭い道路をなんとか解消して交通の利便性を高めるとか、あるいは防災機能を高めていくというようなまちづくりを進めていかなければならないと考えて、現在、東京都のお力もいただきながら、基盤整備を進めています。

その一番大きいのは、東村山駅周辺の連続立体交差事業です。こちらについては、一応完成予定は令和6年ということで、あと3~4年の間に東村山駅周辺は大きく変わる予定になっています。これに併せて東村山駅周辺の整備、都市計画道路の整備なども進めているところでございます。駅のことについて言いますと、東村山市は市内に九つの駅がありますが、乗降客数の多いところというよりはやはり東村山駅、久米川駅、秋津・新秋津駅ということになっておまして、この三極、三つの駅周辺については拠点化してにぎわいを作っていくと考えています。

東村山駅については、連続立体交差事業に併せて、東口の駅前広場についても再整備を予定する予定です。

駅の高架下については基本的には西武鉄道の所有地になりますが、市としては東西をつなぐ通路等についてはできるだけ幅広くしていただいて、24 時間通行ができるように西武鉄道と交渉をさせていただいています。高架下の西武鉄道の所有地については、現在、西武鉄道で土地活用を考えておられて、なんらかの商業施設が誘致されると聞いております。具体的にどんな店舗が入るかはまだ分かりませんが、市としてはやはり、隣が所沢ですし、また南の方に行けば国分寺や立川、さらに東に行けば新宿ということなので、そういうところまで行かなくても市内でちょっとした買い物ができるような賑わいを作ってほしいとお願いをしています。また高架下の 15%については市が土地をいただけることになっておりますので、そこになんらかの公共施設を入れ込んで賑わいを作っていくというようなことを考えているところでございます。

また久米川駅については、高架化はできませんけれども、南口と北口をつなぐ踏切が狭いために、両方に広場ができて非常に行き来がし辛いということで、長年、西武鉄道と東京都に対して踏切を拡幅していただくような要望をしております。こちらについても東京都の方でこれから設計に入るということになっております。ただ踏切を広げると駅舎の一部がかかってしまうので、駅も少し改造しなければなりません。それに合わせて、南口についてもかなり老朽化をしていたり、コロナ対策で南口の植木・植え込みのあたりに全て囲いをさせていただいている状況もありますので、ここについても久米川駅は東村山市でも一番の商業地域なので、そこにふさわしいようなまち作りをこれから検討して賑わいを作れるようにしたいと思っております。

秋津・新秋津駅については、ほとんどは市外の方ではありますが、乗降客数は市内でも最も多い地域になります。先日もテレビで取り上げられるぐらい秋津・新秋津駅間というのは乗り換え客が多くて、朝夕ラッシュ時は緊急車両も通れないような状況になっておりますので、そこは何とか解消して、賑わいは保ったままで、通行の安全性を確保するようなことを考えていかなければならないのかなと思っております。

これら東村山駅、久米川駅と秋津・新秋津駅の三極をうまくつなぐ道路の整備につきましては、今のところ、東村山駅を起点とするだいたい東側の方の道路整備がメインで府中街道をはじめ進められていますが、今後は東村山駅の西側、西武線の西側のエリアについても道路整備を進めていく必要があると考えております。東村山駅西口から武蔵大和駅の方に向かっていく 3-4-9 号線の整備については、今後、東京都と連携しながら進めていきたいと思っております。

一方で、ただ開発だけではなくて、残すべき緑はしっかり残す、農地もできれば残していくということで、自然もあり、都市機能も充実したバランスのとれたまち作りをこれから進めていくことが非常に重要であると思っております。この都市計画マスタープランは 20 年計画でありますので、当然私が市長の間に全てできるわけではありませんが、誰が市長になったとしてもそうしたビジョンを共有しながら、バランスのとれたまちづくりをこれからも息長く、着実に進めていくことが重要だと考えておりますので、ぜひ皆さまのご理解、ご協力をいただければと思っております。

◎ 都市計画・住宅課より ◎

今後の都市計画については、都市計画マスタープランを基本方針として取り組んでまいります。都市計画マスタープランでは、2040年代の都市の姿を「豊かな自然と良好な都市環境が調和し人々の快適な暮らしと活力を生むまち」とし、その実現に向けた将来都市構造として、東村山駅周辺、久米川駅周辺、秋津・新秋津駅周辺の「中心核」や様々な人々の交流を推進する新しい拠点として「魅力創造核」、公共・公益機能や店舗などの商業・業務機能、健康・福祉・子育ての機能などが最適に配置された、地域の日常的な交流を推進する地域として「地域交流核」を位置付けています。また、都市計画道路の一部はシンボル軸、広域交通軸とし、核をつなぐ交通ネットワークとして位置付けております。それら核や軸の形成に向けては、「土地利用の方針」や「道路・交通網整備の方針」など、6つの分野別にその方針を記載しております。

第2次東村山市都市計画マスタープランについては、下記リンクから市のホームページでもご覧いただけます。

【参考 URL】

<https://www.city.higashimurayama.tokyo.jp/shisei/keikaku/bunya/toshi/toshimasu/toshikeikakump2.html>

◆高架下を気軽にスポーツを楽しめるような空間にしてほしい

(久米川町 Sさん)

先ほど市長が高架下を公共施設にと言っていました。高架下の音が響いても問題ない環境を活かして、オリンピック選手を輩出できるようなバスケットボールコート、あと自転車を使用するBMXなど、気軽にスポーツを楽しめるような空間を作るのはいかがでしょうか。

◎ 市長回答 ◎

高架下の活用については、まだ具体的に市がいただける部分についても、こういうふうにするということは決まっておられません。今いただいたご意見も非常に面白いなと思いを聞かせていただきましたが、通常ですと、例えば同じ西武線の先行事例を見てみると、駐輪場のようなものが多く設置されています。これだけだとやはりつまらないので、よその自治体の悪口を言うつもりは全くないですけど、できればおっしゃるような夢のある使い方ができればと思います。東村山駅の高架というのはかなりの高さになりますので、例えばボルダリング競技ができるような施設だとかそういったものも候補にはなるのではないかなと思います。いずれにしてもまた広く市民の皆さんからご意見をいただきながら、高架下の活用については進めていきたいと考えております。今日はオリンピック競技になるようなスケートボードだとか、BMXであるとかというご提案をいただきましたので、それらも含めて検討させていただければと思っております。

◎ まちづくり推進課より ◎

市では、高架下や駅周辺に求められる機能等について、これまでも多くの意見を頂戴して

参りましたが、さらに各世代から幅広くご意見を頂戴すべく昨年9月15日から12月25日までの間、「高架下利活用に向けたwebアンケート」を実施させていただきました。その中には頂きましたご意見と同様、スポーツが楽しめる空間の創出といった内容も多くの方々から頂戴しているところでございます。

webアンケートの結果につきましては市ホームページに掲載しておりますので、ご覧いただければと存じます。

【参考URL】

https://www.city.higashimurayama.tokyo.jp/shisei/machi/machidukuri/higashimurayama_inde/koukashita.html

※「東村山駅周辺高架下利用」で検索いただきますと、ご覧いただけます。

皆様からいただきました貴重なご意見につきましては、今後も西武鉄道株式会社と情報共有を図り、高架下施設の配置計画に意見が反映されるよう市としても働きかけて参りますので、ご理解の程よろしくお願い申し上げます。

◆商業施設やちょっとした食事をするようなところを増やしてほしい①

(富士見町 Nさん)

5年前に立川市から引っ越してきました、何も無いのにびっくりしました。

レストランではなく食堂が何軒かありますが、申し訳ありませんが、一件も入ったことがありません。本当にそれが残念で、ぜひ良いお店を作っていただきたいと思います。買い物は立川まで行ったり、高田馬場経由で日本橋に行ったり、銀座に行ったりして、東村山市では買い物はほとんどしません。隣にドラッグストアがあるのでそこでちょっと買い物をするくらいです。

富士見町は文教都市と言いますか、右も左も学校ばかりです。病院はほとんど立川に行っています。

東村山市がどういうまちだって言われたときに、残念ながら志村けんさんが亡くなられてしまって、初めて彼がここの出身だということを知りまして、志村けんさんのまちだったんだと言うぐらいしか、私の東村山市に対する知識はなかったです。

◎ 市長回答 ◎

引っ越してきてみたら何も無い、特に商業施設だとかちょっとした食事をするようなところがないというお話でございました。私どもとしても、その辺についてはじくじたる思いをしています。

東村山市の人口は15万をちょっと超えるくらいですが、市民の市内の消費というのは6割程度となっており、4割程度は市外に流出をしているというのが現状であると認識しております。特にちょっとしたお洋服を買うとか食事をするというような場合については、立川や所沢、新宿をはじめ都心の方に行かれる傾向があると認識しています。今後いかにして市内での消費、市内での経済循環を促していくのかということが重要であると考えています。

人口としては15万人いますが、おそらく商業的にはその半分ぐらいしか市内ではお金が消費されていないので、規模としては東村山市人口が15万人いても、7~8万人規模の商業

的なキャパシティしかないということがあるのではないかと思います。非常にもったいないことだと思いますので、市内で市民の方がもう少し買い物をしたり、食事をしたり、娯楽的なこともできるように考えていくことが重要であると思っています。

そういう意味でも東村山駅周辺、久米川駅周辺、秋津・新秋津駅周辺の三つを拠点化して、少しでも賑わいを作れるように商業施設の参入を促すよう、都市空間を整備したり、そこにあわせてちょっとしたスポーツができるとか、ちょっとした遊びができるようなことを考えていく必要があるのかなと思っています。

富士見町の地域は小中学校や高等学校が非常に多い文教エリアですが、ちょっとお店が少なく、これまで江戸街道沿いにありましたスーパーも閉店されてしまいました。市内でどちらかというと南の萩山町や富士見町等の商業施設がなくなってしまう地域と、秋津町や久米川町のようにスーパーがどんどんできているエリアもあります。市内の中でもバランスが悪くなっていると私達も感じているので、そういったことをこれからどのように解消していくのかということ、商工会をはじめ、商工業者の皆さんとも連携しながら、交通利便性の確保も含めて、特に高齢者の方が生活必需品などについて買い物難民になって、このまちでは生活ができないというようなことにならないように、取り組ませていただきたいと思っています。

東村山市の売りということと言うと、志村けんさんもそうですけれども、やはり緑が豊富であるということであると思っています。しかも緑が豊富な割には立川や所沢あるいは新宿等、いわゆる繁華街には比較的出やすい地の利があるということになるかと思っています。このような立地を活かしながら、地域の中でももう少し経済を循環できるような仕組みを構築することがこれから大事だと思っていますので、ご指摘を踏まえてこれからも頑張っていきたいと思っています。

◎ 産業振興課より ◎

現在、東村山市への移転における融資制度や商店会空き店舗の紹介等を行い市内事業所数増加を促しているところです。

また、近年市内で創業をする方が増えており、地域の個店でも魅力的なお店が増えていきます。そういった起業・創業を支援しているほか、既存の個店を市民の皆様にご紹介するために、「まちゼミ」といったイベントを開催するなど、既存店舗の魅力の発信も行っており、市民の皆様にとって魅力あるまちづくりを今後も進めていきたいと考えております。

◆商業施設やちょっとした食事をするようなところを増やしてほしい②

(富士見町 Nさん)

引っ越してきた当時に市の方から、こういう会があるからでないかというお誘いがありましたが、何もわかっていなかったものですから、市長さん宛にその点、お手紙を出しましたが返事はありませんでした。中身は市長さん宛で、封筒には広報室という形で出させていただきました。

私は立川に70年間住んでいましたが、立川を去るときには立川市長にお手紙を出したら、文書はパソコンで打ってありましたが、最後に清水市長の直筆で長い間お世話になりましたという記載があり、丁寧なお手紙をいただきました。市長名で返ってきたので、感激をしまして今でも立川が大好きです。

なんとかこの東村山も、大好きなまちになってもらいたいなと思っています。

◎ 市長回答 ◎

市長に手紙を出したが、返事がなかったということで大変申し訳ございませんでした。当市でも「市長への手紙」という制度があって、市民の皆さんから様々なご意見をいただくことになっています。私もいただいた手紙には必ず目を通しておりますが、基本的には、返事を求める意思表示がされたものについて、ご返答をさせていただくというルールになっておりますので、それでご返事を差し上げなかったのかなと思います。大変失礼をいたしました。

確認をさせていただいて、お手紙が残っていれば何らかの形でお返事を出させていたいただきたいなと思っております。



◆ICT を活用した介護予防について

(富士見町 Sさん)

私は、介護予防や認知症介護度の重度化防止の活動をしています。実際に自分が指導したり、指導者を養成する活動で他の自治体さんに招かれて指導に行ったりもするのですが、その中で私が強く感じていることは、高齢者の活動の場、通いの場が無くなってしまったことです。人と人とが接することができず、体を動かす機会がなくなってしまい、そのことによって、かなり潜在的なMC I やフレイルが進んでいる印象を受けています。

このコロナ禍の中で、どのように高齢者の方を健康に、あるいは社会との繋がりを維持していくのか、市としてその辺をどのようにお考えで、これから何か具体的な施策があれば教えていただきたいと思います。

私の方から一つあるとすれば、こういった ZOOM とか、オンラインでの活動をオフラインとハイブリッドで併用するしかないのかなと考えておまして、その中で問題になってくるのは、やはりその高齢者の方の I C T リテラシーの部分かと思います。また、ZOOM というのはオンライン会議室なので、皆さん会議室に集まろうよって声掛けをしてもなかなか集まらないと思います。

例えば盆踊りを配信するなど、楽しいことに参加するということにして、ズームマスターのような高齢者の皆様の I C T を加速するような仕組みなどがあれば、体を動かすことは難しくても、このようにオンライン上で交流するだけでも、認知機能低下予防にはかなり効果があるのかなと個人的には考えているのですが、市長の考えをお聞かせください。

◎ 市長回答 ◎

市としてもコロナ禍以前は、市民の皆さんの介護予防・健康寿命延伸ということで様々な取り組みを行ってきました。各地域で小グループでお集まりいただき、皆さんで会話をしたり、歌を歌ったり、ちょっとした体操をしたりというようなことを行ってきました。一昨年は試行的に、久米川駅東住宅という団地の中で食支援とフレイル予防を組み合わせた活動を行って、会食をしてそこで会話を楽しみながら運動し、かつ栄養士が栄養指導をすることによって、フレイルから予防していこうというような施策を行ってきました。そういう取り組みの結果、第 8 期の介護保険料については、基準額については引き上げをしないで済んだという成果も上がりましたが、それが今おっしゃられるように、この 1 年半は、介護予防も健康寿命を延ばすこれまでの対面式の活動も全くできておりません。ご指摘のように、私どもも市民の皆さんの認知機能あるいは身体機能の低下について危惧しております。これまでも市としては Y o u T u b e 等を通じて色々なことを配信してきていますが、それがどこまで市民の皆さんがご覧になって実践をさせていただけたかということについては、まだ分かっておりません。一人で様々な介護予防をしても、人間の場合、会話をしないと認知機能の衰えが進んでしまいますので、やはりそこについてはご指摘のように、リモートも含めて何らかの形で継続していかなければならないのかなと思っております。

高齢者の皆さんについては、今月いっぱいでは 8 割の方はワクチン接種が完了されます。全国的にも、東村山市の統計上もそうですが、65 歳以上の方の新規感染者数は激減をいたして

おります。

まったく罹らないわけではないのですが、罹られたとしても重症化はしないということがある程度わかってきていますので、徐々にですが、地域における対面式の介護予防教室や健康寿命を延ばす自主的な取り組み等は、再開していくことも模索したいと思っています。今はまだ緊急事態宣言が出されているので、集まっていただく取り組みはできないかなと思いますが、今回の緊急事態宣言下では、学校を含めて基本的には公共施設は時間制限をしながら開館しています。感染予防も重要ですが、やはり市民の活動を全て止めてしまう、その拠点である公共施設をすべて閉鎖して市民の皆さんの活動をストップしてしまうデメリットは大きいと考えています。特に今回は夏休みということもあって、子どもたちの居場所も確保するべきだろうということでやらせていただいています。このようなことから、高齢者の方についても、ワクチンの2回接種が終わった方については、感染対策に気をつけていただきながら、徐々に公民館や憩いの家等の公共施設をご利用いただき少し会話をさせていただき、あるいは簡単な体操をしていただくというようなことを進めていければと考えています。

質問者様のように指導者育成のような活動をされている方には、With コロナ時代あるいはポストコロナ時代の介護予防、あるいはフレイル予防・健康寿命を延ばす取り組みをどのように効果的に展開していったらいいのか、ぜひアドバイスをいただいたり、意見交換をさせていただけるとありがたいなと思っています。今後とも介護予防などについて、市民の皆さまと連携しながら、なんとかコロナ時代を市民の皆さんが著しく心身の機能が低下しないように共に頑張っていきたいと思っていますので、どうぞよろしくお願いいたします。

◎ 健康増進課より ◎

対面方式の介護予防事業については、定員縮小や実施期間の短縮等の新型コロナウイルス感染症予防に留意した形で令和2年度より実施（脳の元気アップ教室、ふまねっと教室、元気アップ体験会等）しています。またオンラインを活用した取り組みとして、従来対面式で実施していた認知症サポーター交流会を、令和2年度に開催しました。専門家による座学のほか、意見交換等を行いました。今後もオンラインを活用した高齢者向けの健康づくり・介護予防事業について、検討していきたいと考えています。

◆高齢者のフレイル・介護予防への空き家の活用について

(萩山町 K さん)

私も萩山町でフレイルサポーターというものをやっていますが、会場に来られる方は、それなりに足腰もしっかりしていていいのですが、なかなかそこまで行けない方について、どうすればいいのかというのが大きな課題としてあります。

今、萩山町に限らず市内で空き家がかなり増えていますが、その空き家をうまく活用して、例えば500メートル範囲内ぐらいでフレイル予防活動ができるような仕組み作りをやっていきたいと考えています。

ただ、これに関しては個人やボランティアグループだけでは解決できません。この部分

に関しては行政と一緒にやっていかなければなりません。空き家を活用するとなると大家さんとの交渉がありますので、行政が間に入って対応していただける、あるいはその大家さんのメリットになるような形の施策を早急に作っていく必要があると思います。というのも、今、団塊の世代が70台前半になっておりますし、憩いの家にしてもそうですが、公共施設は老朽化しており、これを建て直すとなるとまた膨大なお金がかかるわけです。それに代わるものというのは、やはり空き家をいかに活用していくかということに繋がってくると思います。それにはそんなにお金はかからないはずなので、市長の方でその辺の仕組み作っていただけるような、あるいは我々市民と一緒に作っていただけるような形をとっていただけないかなと思っています。

◎ 市長回答 ◎

介護予防、フレイル予防の拠点として、公共施設だけではなくて、増えつつある空き家の活用ということのご提案をいただきました。

とても大事な視点かなと思って聞かせていただきました。公共施設について言いますと、今ご指摘がありましたように昭和50年代ぐらいに作られた施設が東村山市の場合非常に多いので、これらをどのように再生していくのかというのは非常に大きな課題になっています。

ただ、現在ある公共施設を全て残すには非常に財政的に厳しい状況なので、今、市で考えているのは、学校等の建て替えに合わせて周囲の様々な公共施設を学校施設と合築するような形で、機能は維持をしつつ、建物としては集約をするというようなことを考えざるを得ないというふうに思っています。そうすると今までは歩いて行けた場所に集会所があった、あるいは憩いの家があったということが、今後はやや遠くの小学校中学校に行かないと、そういったサービスが受けられないという方が出て来る可能性があります。逆に近くなるという方もいらっしゃるかもしれませんが、そういう中で今後増えていく空き家を有効活用して地域コミュニティの場として活用していくというのは一つの考え方としてはあるのかなと思います。ただ空き家を保有されている持ち主の方へのアンケート調査では、貸し借りについては前向きに考えていただいている方は実はあまりいらっしゃらないというのが、浮き彫りになってきています。

ただ、おっしゃられるように、間に市が入って市が借りてそれを周囲の方にご利用いただくような場になれば、持ち主の方もご理解いただける可能性が出てくるかなとは考えていますので、今後その辺の考え方を整理しながら、私的にはできれば介護予防だと健康寿命の延伸をする場が東村山市内の町丁目に1つあれば、広くても300mから400mぐらいの徒歩圏内にできるかなと思いますので、そういった場をできるだけ、正直に言えばお金をかけずに確保できればと思います。

また、例えば民間の事業者さんで場所を貸していただける方がいらっしゃれば、そういう場を利用しながら、みんなで楽しく介護予防をできるような場を作ったり、あるいは学校などを活用して子供たちと交流する場を作ったりなど、これから考えていくことが大事かなと思っていますので、すぐには方向性を出せないかもしれませんが、我々としても空き家を活用しながら介護予防を展開していくということについてはこれから考えていく必要があることだと思っていますので、いいご提案をいただきましたので、今後検討を深めさせていただければと思います。

◆文化・芸術分野に力を入れてほしい

(諏訪町 Nさん)

東村山市に住んで10年になりますが、市内の文化・芸術の意識の低さを感じています。まちおこしに関しても迎合的というか、簡単に言えばすごくミーハーだなと感じることが多いです。例えば「女子高生の無駄づかい」という漫画がちょっと売れたときに、浮かれてすぐに喰いついた、そんな感じを受けます。東村山市には例えば絵本作家のやべみつのりさんをはじめ世界的な作曲家の武満徹さんが晩年過ごされたりしています。このことから文化・芸術とは縁がある市だと私は思っています。その功績とは裏腹に、武満徹さんの知名度が市内で低すぎると感じています。

私は子育て世代ですけれども、子供たちには本当に良いものを見て欲しいと思っており、文化的、芸術的な感性を培ってほしいなというふうに考えています。

市内では東村山こども劇場さんが孤軍奮闘しておられますが、市として、より文化的・芸術的な分野に力をいれていただけたらいいなと思っています。

◎ 市長回答 ◎

もっと文化・芸術について積極的に取り組んでほしいとお話をいただきました。

確かに、「女子高生の無駄づかい」に飛びついたのは私なんですけど、東村山市を舞台にしたマンガ・アニメーションだということなので、いち早く取り上げさせていただいたということでございます。

おっしゃられるような趣旨はよくわかります。武満徹さんについても、お住まいであったということすらご存知ない市民の方が圧倒的に多数だと思います。武満徹さんの音楽自体、現代音楽なので、あまり一般的になじみがないのかもしれませんが、そういった方が市内にお住まいだったということは、我々ももう少しきちんと発信をしていかなければならないことだと思います。

文化・芸術関連でいえば、お生まれは東村山ではありませんけれども、多磨全生園で小説を書かれていた北条民雄さんという方がいらっしゃいます。川端康成さんが非常に絶賛されたという方で、20代という若さで亡くなられているのですが、最近、非常に注目され直しています。北条さんの代表作であります「いのちの初夜」という文庫があり、これは多磨全生園に入所されたその日の夜の出来事、一晚のことを書かれた小説ですが、それが角川文庫より再販をされるということもあって、日本ペンクラブの皆さんとリモートで北条民雄さんについての催しを、昨年の暮れに中央公民館で行わせていただきました。

その他、ご健在の方で言いますとあまりポピュラーではないのかもしれませんが、東村山市には現代詩の世界では一番すごい人だといわれている荒川洋治さんという方がお住まいになっておられて、一昨年であったと思いますが、日本藝術院賞を取られた方です。そういった方も今、市内にお住まいになっておられて、コロナ禍のため大々的にはできなかったのですが、荒川さんについても昨年、公民館で講演会をしていただきました。少しずつではありますが、東村山市にゆかりのある芸術家や文化人の方に市の方からお願いして、このような活動をさせていただいているところでございます。

おっしゃられたやべみつのりさんも、息子さんがまた絵本を出されましたので、注目が集まるかなと思っています。

東村山市にゆかりのある芸術家・文化人の方が、多くの市民の皆さんと接する機会を我々

としても作らせていただいて、少しでもご主旨である子どもたちに本物の芸術や文化に触れていただいて、感性を磨いていただくようなことができればと思いますので、今日いただいたご意見も踏まえて少しでも文化の香りがするようなまちづくりを目指して頑張っていきたいと思います。

◎ 社会教育課より ◎

コロナ禍における文化・芸術・芸能に親しむ機会の提供に際しましては、やむを得ず事業の中止や縮小せざるを得ない状況ではございますが、市民の皆様の文化活動の発表の場として「市民文化のつどい」「市民文化祭」の他、3年に1度の開催となりますが、市内の園児・児童・生徒の日頃の文化活動等の発表の場として、「八国山芸術祭」を関係機関と連携し、実施しております。なかでも「市民文化のつどい」や「市民文化祭」では、参加団体が、来館された市民の皆様に、身近な文化・芸術に触れ合う機会の創出を図るため、体験コーナーを設けるなど創意工夫をしております。

また、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の開催に向け、スポーツのみならず、文化都市東京の魅力を発信するため、本市においては、中国のホストタウンでもあることから、東京都と連携し、中国雑技や音楽、日本舞踊を公演し、中国文化と日本文化の魅力を肌で感じていただく機会の創出を図りました。今後はさらに市民の皆様が、市にゆかりのある文化人や芸術家等を接する「学び」の機会の創出に向けて、庁内で連携を図り、市全体で「学び」の機会の創出に向け検討してまいりたいと考えております。

なお、「東村山こども劇場」の活動におきましては、市の関連所管が連携を図り活動を支援しておりますことから、今後もさらに連携を深め継続した活動が図られるよう努めてまいります。

◎ 公民館より ◎

公民館では、市民の学習機会を提供することとして、社会教育・生涯学習に関する講座や講演などを開催しています。令和2年度には当市中央公民館開館40周年記念事業として、東村山市ゆかりの真鍮の鍛造と溶接による造像技術で澄明な彫刻家で版画家でもある池田宗弘氏の作品展と、アイヌ民族を題材とした作品を発表され高い評価を得ている写真家宇井眞紀子氏の写真展を開催するとともに、お二人をパネリストに迎えた「文化・芸術シンポジウム」を開催しました。

また令和3年度には、東村山市にゆかりある詩人草野心平氏と小説家藤沢周平氏に関する市民講座を開催することとしています。

公民館では、市民の皆さんからの公募によるテーマによる市民講座を実施しています。数多く応募のあったテーマの中から選定された市民講座では、芸術活動につながる講座もあり、講座終了後にサークルを立ち上げ、活動を継続している方々もいらっしゃいます。また、東京都と公益財団法人東京都歴史文化財団アーツカウンシル東京、公益財団法人日本芸能実演家団体協議会と連携してキッズ伝統芸能体験なども行っています。市民の皆様のご要望の学習系、体操系・芸術系など偏ることなくバランスよく実施しています。

◎ 図書館より ◎

廻田図書館には CD や関連資料を集めた「武満徹コーナー」、秋津図書館には、詩人の草野心平さんの作品等を紹介するコーナーがあります。地元との関わりを紹介したリーフレット「草野心平と秋津」は、図書館ホームページ等で紹介・配布しております。平成30年度は、息子の矢部太郎氏をゲストに迎えて「やべみつのりトークショー 「紙芝居と僕」」を、令和2年度は現在詩作家の荒川洋治氏をお招きし、文学講演会「東村山ゆかりの名作」を行い、いずれも大変好評でした。今後も地域にゆかりの作家や文化人に関する資料を収集し、資料展示などで市民周知及び利用促進に努めてまいります。

◆文化・芸術振興のために子どもと一緒に参加できるような企画をしてほしい

(諏訪町 Nさん)

文化・芸術について先ほど講演会というお話がありましたが、私たち子育て世代は講演会にはなかなか参加が難しいことが多いです。日曜日は家族と一緒にいたり、どこに行くにも子供と一緒にとなります。なので、子育て世代に届けるのであれば、例えばアートイベントの支援や企画などのように子供と一緒に参加できるようなイベントを企画していただけると嬉しいなと思っています。

◎ 市長回答 ◎

おっしゃる通りだと思います。先ほど名前が出ていたことも劇場さんとは連携しながらイベントをさせていただいておりますので、今後もそういったことを積極的に行っていきたいと思っています。

市内でもいろいろ活動されている芸術家の方もいらっしゃるのですが、コロナが収まってきた際には、ぜひご指摘のあったような子どもたちも参加できるようなアートイベントなどの機会も増やしていきたいと思っています。

◎ 社会教育課より ◎

幼少期より文化・芸能・芸術活動を身近に触れ、親しむことが子供たちの健やかな成長に寄与するものと捉えております。

子育てしながらでも生涯学習が行えるよう、様々なイベントの開催や情報提供など、社会教育施設や子供関連所管と連携を図り、市民の皆様が文化・芸術・芸能に触れ合う機会の創出に向け検討してまいります。

◎ 公民館より ◎

公民館では、親子参加企画、土・日開催を増やすなど子育て世代にも参加しやすい事業を考慮して実施いきます。

◎ 図書館より ◎

コロナ禍のなかでは安全な事業実施が難しい状況ですが、「親子図書館体験」など保護者とお子さんが一緒に参加できる事業を工夫し行い、子供の読書推進に取り組んでまいります。

◆中央公園の大災害時の位置づけについて

(富士見町 Sさん)

中央公園は大災害が起きた場合に、防災基地になりうるというのは市や東京都から出ていますが、それは現在も変わっていませんか。また、中央公園は防災基地になるという認識でよろしいですか。

◎ 市長回答 ◎

中央公園は東村山市民だけではなくて市外の方を含めての避難場所に位置づけられています。そこは変わっておりません。また、中央公園は防災基地というよりは大規模な避難場所に位置づけられている所になります。

◎ 防災防犯課より ◎

広域避難場所になるほか災害用トイレも設置しています。また、大規模救出救助活動拠点の候補地にもなっています。

◆SDGsの取り組みについて

(本町 Nさん)

SDGsについて昨年から市報でも取り上げられていて、6月18日にはSDGsセミナーなどが開かれて、啓蒙活動が行われていると思います。ただこれがどこまで市民の中に浸透できているか、実行できているかについて疑問に思っています。

個々でやるとか部署部署でやるというより、どこでもやるような水平展開ができればいいかなと思っています。簡単な例でいえば、このSDGsを家庭でやるとすれば、節水とか節電とか、ごみの減量化とか、そんなのはいつでもできるSDGsじゃないかと思うのです。

それを個人に置き換えれば、水の垂れ流しはやめておこうとか、たまにはシャワーで水を節約しようとか、いろんなかたちでSDGsに参加できると思うのです。

同じように市役所、包括支援センター、警察や病院などでも、どこでもできるSDGsがあると思うのです。

そういうできるSDGsの共有化を誰かがしていただき、そういうものなら一緒にできますねとなって、広くみんなが取り組めるような、SDGsの音頭をとって進めていただけると、やりやすいのではないかと思います。

なかなか、一人だったり、ある部署だけだったりすると長続きはしなくなりますので、全体的に誰かの音頭で、SDGsの取り組みがもうちょっと進むといいかなと思っています。

◎ 市長回答 ◎

第五次総合計画は、今回は初めて市では副タイトルをつけさせていただいて、「わたしたち

のSDGs」というふうに銘打ちをさせていただいています。ほぼ10年ごとに市ではこういう総合計画を作って、ハード、ソフトのまちづくりや、市政運営を進めているわけですが、現状、東村山市も人口が頭打ちになってこれから人口減少社会を迎えるということで、いつまで市として、まちとして存続できるかという、まち自体の持続可能性をいかに高めていくかということが一つの大きな課題になっています。

そういう意味で言うと、地球全体の持続可能性、あるいは人類の持続可能性を高めるということで、国連が2020年から2030年までにかけて提唱しているこのSDGsというのは、東村山市にとっても相通するものがあり、誰一人取り残されることなく、住み慣れた地域で住み続けられるような地域作りをこれからも進めていくとともに、地球全体の持続可能性に貢献する、そんなまちづくりを進めていくということを掲げさせていただいています。

まだ始まって間もなく、コロナ禍ということもあり、なかなか大々的ないろんな事業展開ができていないところではありますけれども、今、市では市民の皆さんにこうした考え方を普及促進するための様々な啓発的な取り組みをしようということで、SDGsの推進に当たってのプラットフォーム作りを進めさせていただいており、先般も総合計画審議会の会長さん等とリモートでこういう会議をさせていただいたところです。そのときに識者の皆さまからはいろいろご意見をいただいたのですが、やはり活動を長続きさせるためには、あまり大上段に構えるのではなくて一人ひとり市民の方ができることからやっていただく、それからやはりやって楽しいというようなことでないとなかなか長続きもしないし広まっていけませんよというようなことをおっしゃっていただきました。

それからある審議会の会長さんは、今、東村山市が行っていることも、SDGsに重なる部分がいっぱいあるのでそういったことをうまく活かしてまったく新しいことを1から始めるというよりは、今やっていることをもう一度市民の皆さんと確認しながらさらに広げていくような取り組みをしたらどうでしょうかというご提案をいただいています。そこで、我々として今考えているのは、まず未来を担う子どもたちに、今のおかれている地域の実情や地球の状況を知っていただいた上でSDGsの考え方を、子どもなりに理解してもらって、省エネや節電節水、ゴミの分別やリサイクルなど、自分でできることをまず取り組んでもらおうということで、教育委員会と連携しながら市役所から各学校に出前で講座をするような形で、子どもたちにSDGsを知ってもらう取り組みをさせていただいています。

また、SDGsというのは単に環境に配慮するだけではなくて、新しい経済的な価値を生み出すということの一つになっています。環境も経済も社会問題の解決もということで進めなければならぬので、そういった取り組みが地域の経済にプラスの効果をおよぼすようなことを、我々としてもこれから考えていかなければならないかなと思っておりまして、そういう意味では市民の皆さんや市内の様々な事業者さんと連携をして、SDGsをみんなが進めていく、そういうことが大事だと思っています。

今後、いろいろな団体や市民の皆さんに呼びかけさせていただいて、SDGsを全市的に推進できるような体制を整えつつ、この第五次総合計画で掲げているまちのこれからの持続性を高めながら地球環境にも貢献し、また経済も活性化をするような政策展開を進めていきたいと思っておりますので、ぜひ市民の皆さんにはまたSDGsの推進にあたって、ご理解・ご協力をいただければと思います。

◎ 企画政策課より ◎

令和3年度から新たな計画期間が始まった第5次総合計画では、市のすべての施策についてSDGsの趣旨を踏まえて施策展開を図ることとしています。SDGsの達成のためには、行政だけでなく、市民やまちに関わる全ての人々が主体的に取り組むことが重要となります。個人でもできる身近な取組もSDGsにつながるため、取組事例の紹介や意識付けのための情報発信を積極的に行ってまいります。

SDGs推進の取組の一つとして、市では現在、SDGsへ取り組んでいる（または今後取り組もうとしている）事業者や個人をSDGsパートナーとして認定する仕組みを検討しています（9月中旬運用開始予定）。この取組は市のHPにおいて、パートナー認定した事業者の概要、取組内容等をPRし、認定された事業者の認知度やイメージの向上、人材の確保や新たな事業機会の創出を期待するものです。また、個人もパートナーの対象とすることで意識付けを図り、SDGsに取り組む人の裾野を広げてまいります。

また今後は、SDGsパートナー同士の交流会や市の公式ツイッターなど、SDGsパートナーの取組を発信する新たな場も検討していきます。

取組を継続することが大切ですので、無理せず、楽しく、自分に合った取組を見つけて取り組んでもらえるよう、身近なことから周知啓発を図りながら機運を醸成し、SDGsを推進していきます。

◎ 環境保全課より ◎

SDGsやパリ協定（※1）を踏まえ、第3次東村山市環境基本計画の策定に合わせて、環境にやさしい行動を普及啓発するために、「東村山市みんなのエコ行動」というリーフレットを作成しています。ホームページ（※2）からダウンロードできますので、ぜひご覧いただき、日々の生活の中で出来ることから取り組んで下さいますよう、お願いいたします。

※1

「世界の平均気温上昇を産業革命以前に比べて2℃より十分低く保ち、1.5℃に抑える努力をすること」を目的としています。

※2

市ホームページ「東村山市環境基本計画」URL

https://www.city.higashimurayama.tokyo.jp/shisei/keikaku/bunya/kankyo/kankyo_kihon.html

◆災害時の拠点となる避難所に関する周知について

（萩山町 Kさん）

東村山市の市内の小中学校に避難所運営連絡会がほぼ設立されたという話は伺いましたが、避難所に実際に来られる方は、入れる人数を考えても市民の1割にも満たないかと思えます。しかもコロナ禍ということもあるので、さらにその3分の1程度になると思われます。ほとんどは在宅避難になると思いますが、要援護者や高齢者も避難所に来るのが難しいので、在宅避難というのが基本だと思います。

その在宅避難について、各避難所運営連絡会でどのくらい周知されているのか、あるいはどう対応されているのかということが見えてきません。

避難所というのは、各小学校が災害支援のセンターみたいなかたちになると思います。水や支援物資、食料にしてもだいたい避難所に集まってきて、それを地域住民に配付であったり、情報の発信をしていくであったり、そういうところになるはずですが、そういう意識を持った避難所がどのくらいあるのか、そして市民がそれをどのくらい知っているのかということが分からないので、そのあたりをもっとPRすれば、各自治会さんにしても、もうちょっと参加してくれるのではないのでしょうか。要するに自分たちのこととして捉えられるような訴え方をもっとしていただければと思っています。ここへ来て気候変動、集中豪雨、台風もだんだん強くなってきています。去年の台風も進路がそれのために、被害は少なく済みましたが、あの台風がもし東村山市を通ったら、かなりの被害が出ていたと思います。

そういうことも踏まえて、もう少し市民や各自治会に対して、「避難所というのは自分たちの支援をするための本部である」というような言い方でPRしていただければと思います。

◎ 市長回答 ◎

避難所の在り方についてご意見をいただきました。おっしゃられるように、コロナ禍ということもあり、避難所についてはできれば分散避難を考えています。風水害については、ご自宅があまり川等の近くではない場合は、ご自宅にとどまっていたり、あるいはハザードマップ等をご確認いただいた上で、垂直避難で可能であれば、ご自宅の2階部分に避難されたり、さらにはご友人やご親戚のお宅等に避難をいただくということで感染予防を考えつつ避難をしていただくようなことを今、呼びかけさせていただいているところでございます。

しかしながら大きな地震が万が一発生した際に、ご自宅が被害を受けられた場合については、避難をせざるを得ない状況というのはあるだろうと想定をしております。そうなるとコロナ禍の中では距離を保って避難をしていただくには、場所が足りなくなってしまう可能性もありますので、民間の建物等でお借りできる場所については何とかお借りをしていこうというようなこと、あるいは国や東京都の施設についても、避難先として市民の皆さんが避難できるよう受け入れをお願いするというようなことを今進めさせていただいているところでございます。

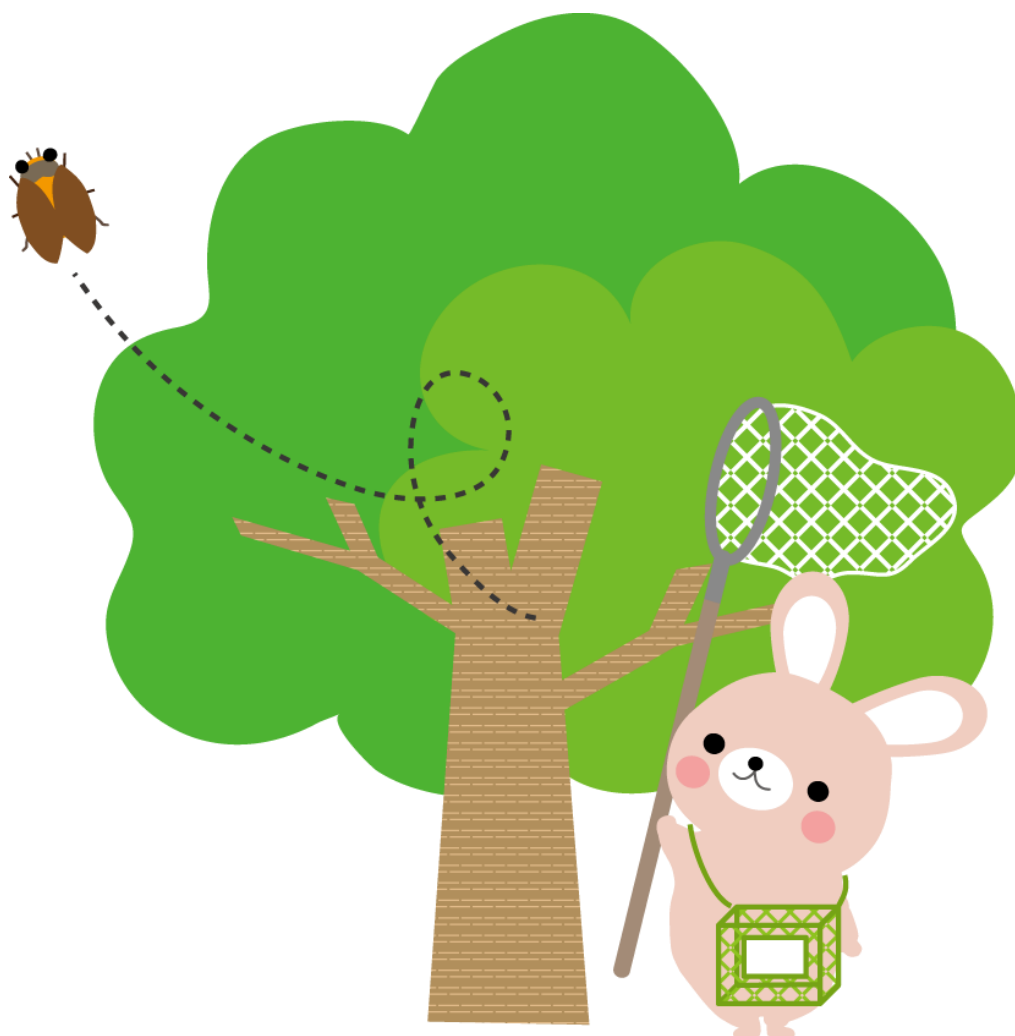
ご指摘のように、被災をされたとしても在宅避難の方は一定数いらっしゃるのですが、そういった方は生活のための物資、特に水や食料の支援については、基本的には避難所まで取りに来ていただくざるを得ません。どうしても自分で取りに来られないとなればご近所の方に取りに来ていただく、あるいは避難所の方がお届けをいただくということを考えなければならぬことなので、避難所は本当にそういう意味では、発災後、市民の方々の生活あるいは生命を維持するために必要不可欠な拠点ということになりますので、多くの市民の皆さんには、やはり我がこととして捉えていただくということは非常に大事なことだと思っています。

各地域の避難所運営連絡会の方に、避難所開設訓練や運営訓練を行っていただいておりますが、多いところでも住民全体からすると数パーセントの参加となっております。この辺をどのようにPRし、一人一人の市民の皆さんに、万が一の場合どのように行動するのか、避

難所とどのような関係を保っていくのかということについて考えていただくことが大事だと思いますので、避難所運営連絡会で地域住民の方や自治会、老人会あるいは福祉協力員の方々が多数参加して日常的にいろいろとお骨折りをいただいているということについて、もう少し市としても積極的に周知をして、市民の皆さんとその辺の情報の共有を図っていくように取り組んでまいりたいと考えております。

◎ 防災防犯課より ◎

防災啓発に関する情報発信の際や、現在は実施できていませんが地域の皆様に防災の出前講座として実施している「防災講話」等の機会を捉え、災害時における避難所の役割、在宅避難時の注意事項等についての啓発を行っていきたいと考えております。



◆志村けんさん銅像プロジェクトについて

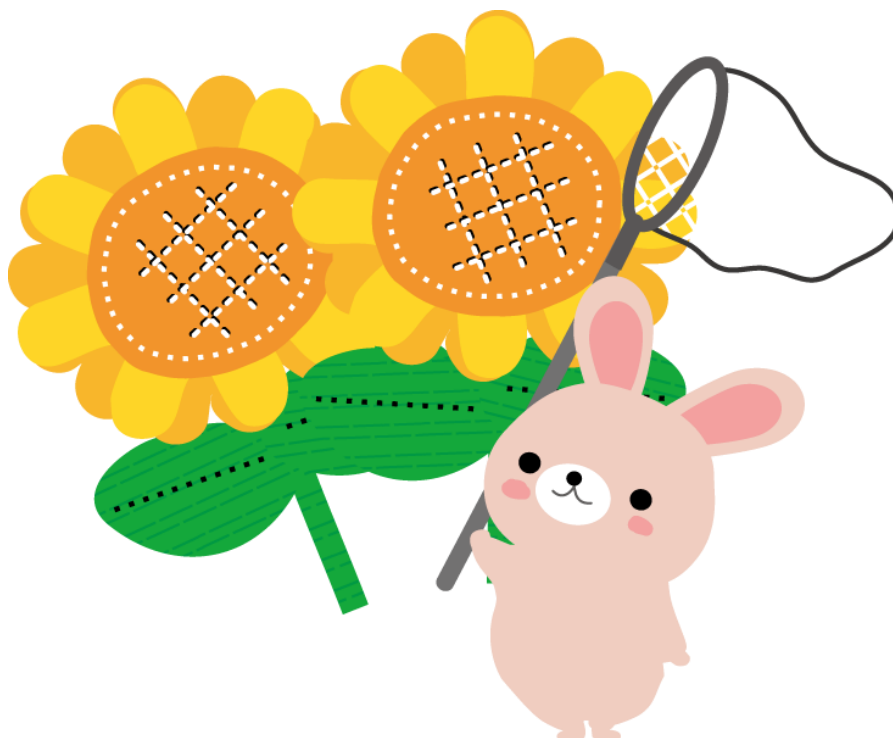
(諏訪町 Kさん)

志村けんの銅像問題についてです。この間建ってしまったみたいですが、以前、私が市長にタウンミーティングでお話したときに、市長が「一部の反対の方がいらっしゃいますが」と言われました。ただこれはもうずいぶん前にも話したと思いますが、私が知っている唯一の調査では、賛成の方が少なく、反対の方がずっと多く、賛成派の5倍くらいあったというようなアンケート調査でした。それが唯一の調査だと思います。

根拠データとしては反対派の方が多数派で、賛成派の方が一部であるというはずですが、市長は反対派の方が一部であると言っており、あたかも反対派が少ないような言い方をされました。そうすると他のデータでもあるのかなと思い、反対派が少ないというデータとか根拠はあるのかどうかということをお聞きしたいです。

◎ 市長回答 ◎

銅像については6月に設置をされたということで、今のところ市の方には直接的に市民の方から、「なぜあんなも建てたんだ」というような意見等はいただいている状況でございます。反対派の方が少数だと断定的な言い方で申し上げたつもりはないですが、経過としてはこれまで申し上げてきたとおりで、昨年の6月定例会で志村けんさんについては名誉市民にということで議会で議決をいただいております。市民の代表である議会で、どなたも反対をされずに名誉市民になったということを考えますと、私としては銅像についても賛成をされておられる市民の方が大多数ではないかと考えております。このような判断に基づいて設置を許可したところでございますので、ぜひそこはご理解いただければと思います。



【市長まとめ】

皆さん長時間にわたりましてお付き合いいただきありがとうございました。冒頭でも申し上げた通り、コロナ禍以降、このタウンミーティングについてはなかなか実施できなくなっております。昨年の8月には会場に半分、リモートで半分というハイブリッドでタウンミーティングを行いました。それ以来リモートで行うのは2回目、完全リモートでやったのは今回が初めてでございます。

通信環境の問題で皆さんのお声がこちら側に届かなかったり、もしかすると私の声も皆さんの方に届いていなかったりしたかもしれません。

初めて完全リモートでタウンミーティングやって、いろいろ課題もあるなと正直、思ったところでございます。非常に手慣れた方もいらっしゃるれば、私もそうですが、どちらかというあまりリモート会議システムに慣れていない方もいらっしゃいますので、今後はこういったリモートと対面とうまく組み合わせてハイブリッドでやはりコミュニケーションをとっていくということがいろんな場面で上手くいくのではないかと考えておりますので、その辺の課題を整理しながら、タウンミーティングを行っていければと思っております。

いただいた課題についてはお答えをさせていただいた通りでございます。コロナ禍ということで、いろいろ制約がついてなかなか思うように事業ができなくて困っているところもありますが、ご指摘いただいたように、災害もコロナ禍だからといって起きないという保証は全くありませんし、コロナ禍で様々な方が家にとじこもり気味になると、まち全体の活力が失われたり、その方の身体あるいは精神の活力も失われたりということもありますので、やはり今後は感染対策を施しながら何とか市民の皆さんとのコミュニケーションを密に取りながら、ぜひコロナ禍の中でも元気な東村山になるように努力していきたいと思っておりますので、今後ともぜひ皆さんのご理解とご協力を賜りますようお願いして、私からのお礼のご挨拶に代えたいと思っております。皆さん大変ありがとうございました。



市民と市長の対話集会
第142回
タウンミーティング記録集

発行 令和3年9月
東村山市 市民部 市民協働課
東京都東村山市本町1丁目2番地3
Tel 042(393)5111